

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270201561
法人名	有限会社 ナイスケア
事業所名	ナイスケア グループホーム白岳
所在地	長崎県佐世保市白岳町604番地 (電話) 0956-33-0020
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年3月5日

【情報提供票より】 (平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤23人, 非常勤 2人, 常勤換算23.4	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリー造り	
	4階建ての	2~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有() 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無()	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (3月 5日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	13 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐世保中央病院、千住病院、フジイ内科胃腸科、大串歯科医院、
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海岸近くのホームは地域の生活圏内であり活気のある地域に位置する。開設当初からの7つの運営理念は介護だけでなく地域密着が明記されている。施設長の地域への働きかけだけでなく職員一丸となり積極的にに関わり、年を追う毎に地域との連携が強くなってきている。また職員を育てるために外部研修内部研修が充実している。年1回職員の研修アンケートを実施し、職員の介護技術の向上を常に目指している。また家族との絆を大切に、家族アンケートを年1回実施したり、メールのやりとりなど柔軟に対応している。利用者は趣味や特技を生かし、生け花や書道をしたり、詩吟教室を行ったりしている。介護計画書の介護項目を全職員は把握しており、日々実践している。本年度はユニット長を設けるなど体制が新たに、より一層のサービス向上に向け取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は全職員で話し合いが持たれ解決に向け対応を話し合い取り組んでいる。前回の改善事項である自己評価の取り組み方は、全職員が記入し話し合いの場をもったり、家族との報告確認の徹底など改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は職員は十分に理解しており日々の介護の振り返りになっている。自己評価については全職員で記入し話し合い作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	本年度は4ヶ月に1回、家族代表、市長寿社会課職員、自治会長、他グループホーム管理者等のメンバーで開催されている。行事の案内、報告、外部評価の結果や家族の要望、職員の異動など報告している。議事録は職員にも回覧されており、そこでの意見をサービス向上に活かす取り組みをしている。ホーム規程では2ヶ月に一度とあるため、回数を増やし、より地域に開かれた運営推進会議の開催を希望する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱が設置され、重要事項説明書に苦情受付窓口が明記されており、第三者委員は別紙に記入されている。家族会が年1回開催され、意見も多く出されており、家族アンケートも年1回実施され、意見や要望は全職員で検討されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地区の清掃活動や敬老会、運動会に職員同行で積極的に参加している。近くの保育園児と中庭に植えてある芋や、じゃがいもほりを一緒に行ったり、夏祭りや年忘れ会、新年会等で自治会長や職員、家族などと交流することに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは開設当初より地域密着を重要視し運営理念を作成している。その中で職員は話し合い、運営方針に「家庭的ななじみのある環境・少人数の親しみのある人間関係・あるがままを受け入れる温かい雰囲気・慣れ親しんだ生活の継続と、残された能力をできるだけ活かした生活の組み立て」を掲げ地域とのつながりと重視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアの見やすい所に掲示されている。ユニット会議を利用して、理念を確認し合い共有しており、日常のケアに取り組んでいる。また新人職員には特に力を入れ理念の指導をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の清掃活動や敬老会、運動会に職員同行で積極的に参加している。近くの保育園児と中庭に植えてある芋や、じゃがいもほりを一緒に行ったり、夏祭りや年忘れ会、新年会等で自治会長や議員、家族などと交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は職員は十分に理解しており日々の介護の振り返りになっている。外部評価の結果は全職員で話し合いが持たれ解決に向け対応を話し合い取り組んでいる。前回の改善事項である自己評価の取り組み方については、全職員で記入し話し合って作成している。		

ナイスケア グループホーム白岳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は4ヶ月に1回の開催に終わっている。家族代表、市長寿社会課職員、自治会長、他グループホーム管理者等のメンバーで開催されている。行事の案内、報告、外部評価の結果や家族の要望、職員の異動など報告されている。議事録は職員にも回覧されており、そこでの意見をサービス向上に活かす取り組みをしている。	○	ホームの運営推進会議の内容は充実されているが、ホーム規程では2ヶ月に一度とあり、また基準省令にも概ね2ヶ月に一度の開催が望ましいとあるため、回数を増やし、より地域に開かれた運営推進会議の開催を希望する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は市長寿社会課、生活保護課の職員とは、介護保険の更新手続きや入退居者の報告の際に情報交換・意見交換等を連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回利用料の請求書とお知らせを同封し郵送している。家族の訪問時には、近況を報告し、要望等聞き、金銭出納帳の確認と、領収書を渡している。遠方の家族へは月1回、電話連絡で報告したり、施設長とパソコンでのメールの交換もある。	○	利用者のホームでの様子や行事の案内、報告、職員の異動等を家族に知らせる、ホームだより等の発行を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置され、重要事項説明書に苦情受付窓口が明記されており、第三者委員は別紙に記入されている。家族会が年1回開催され、意見も多く出されており、家族アンケートも年1回実施され、意見や要望は全職員で検討されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重要視しており、職員の採用は各ユニットで行われている。異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、環境の変化による利用者への影響を配慮している。		

ナイスケア グループホーム白岳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回職員に対して研修に関するアンケートを実施し、その希望や実務経験に合わせた研修への参加を促している。外部研修の内容は、毎月の内部研修で資料を全員に配布し報告をしている。また資料は保管し職員がいつでも閲覧できるようにしている。新人職員にはユニット長が指導役となり、1ヶ月間現場での実践を通して育成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の交流会や介護福祉士の研修会へ職員は参加しており、他グループホーム職員と意見交換したり、お互いのホームの見学会が企画され、職員が訪問し日々の介護の振り返りの機会になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を2日～1週間行い、本人が安心して入居できるよう場合によっては、家族がホームに宿泊したり、家族の協力を得て外泊もできる。体験入居時の経過記録を基本情報として、ケアに活かしており、馴染めるまでは担当を決め、身の回りのことや買い物支援など見守り体制を取っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が出勤時に「おかえり」と利用者から声をかけられ、「ただいま」と答えているなど、支え合う関係が築かれている。利用者に活け花や詩吟の得意な人がおり、ホーム内で教室を開き、職員も一緒に学んだり、昔の掃除方法やマナー、生活の知恵を教えてもらいながら共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向は本人や家族から話をよく聞き、生活歴や申し送りノートを活用し把握するよう努めている。会話が難しくなった利用者には元気だった頃の様子を踏まえて、職員で話し合い表情から汲み取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、病院からの要望、職員の介護方針、病院受診ノートから介護計画の原本を作成し本人、家族へ説明している。希望があれば反映させ、家族からはサインをもらっている。遠方の方には送ることもあるが、本人にサインをしてもらったことを家族に伝えている。元気な利用者が自分の介護計画に参加することもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しをしている。安定した状態であれば6ヶ月に1度とし、変化があった場合は個人日誌に医師からの指示（水分制限や尿量測定等）の特記事項を赤字で記入し、本人、家族ともよく話し合いプランの変更をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週2回のデイサービスのハーモニカ教室、活け花教室、詩吟教室に参加したり、いきつけの美容室や買い物、散歩、法事、墓参り、外食、外泊等、利用者の希望で柔軟な対応ができています。		

ナイスケア グループホーム白岳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医に受診できている。通院が無理になってきた場合は往診の出来る医療機関を家族に説明している。協力医との連携で急変時や夜間も適切な受診ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は研修を受け、ターミナルケアの実績もある。重度化の研修にも参加し職員間でも研修を行っている。また、利用開始時に本人、家族へ重度化や終末期に向けた方針の説明が口頭で行われ、同意も得ている。しかし、その方針は文章化されていない。	○	重度化した場合や終末期に向けた方針を、本人、家族、かかりつけ医とよく話し合い、全員で方針を共有し、文書を作成されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入社時に個人情報守秘義務の誓約書を書き、家族に対しては個人情報取り扱い同意書が取られている。同様にボランティアの方にも説明している。個人情報の書類や薬は利用者や来訪者の目に触れない所定の場所へ保管されている。利用者に対するトイレ誘導等の声かけは、耳元で小さな声で行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調やペースに合わせ、起床や食事は自由に対応している。一日の過ごし方は利用者との会話や様子の中から希望を汲み上げ、職員との申し送りや日常頻りに職員同士で情報交換をしたり、その内容は個人記録を利用して情報を共有している。		

ナイスケア グループホーム白岳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食材の買出し、野菜の皮むき、下ごしらえ、後片付け、おやつ作りをできる範囲で手伝っている。職員も同じテーブルで同じ食事を取り、談笑しながら介助している。状態に合わせて、とろみ食、刻み食も提供している。また食前に嚥下体操も行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった日はなく、希望があれば毎日でも入浴できるが、ほとんどの利用者は1日おきに入浴している。拒絶がある場合は声かけを工夫し、「脱衣所に忘れ物を取りに行きましようか」等と何げなく誘導している。夏場はシャワー浴もおこなわれ、入浴剤をいれてゆっくり楽しんだりもしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の特技を活かして利用者を講師とする活け花、詩吟教室を開いており、他の利用者も一緒に楽しむきっかけ作りを行っている。他に洗濯物干し、たたみ、計算ドリル、その採点、季節のカレンダー作り、花作り、水やり等と楽しみながら役割も担っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回の食材の買出しに出かけたり、ドライブや中庭の散歩やベランダでの外気浴等、車椅子の利用者も一緒に支援されている。職員は季節や行事などによる外出の回数を増やす事に意欲的である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は玄関の施錠はないが、利用者の状態により、家族の希望で一時的に施錠することもある。無断外出に備え、自治会、タクシー会社や警察、消防署に連携を取っている。		

ナイスケア グループホーム白岳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年2回実施され、中庭で消火器の訓練もしている。甲種防火管理講習に施設長が参加している。地区消防団との協力体制もある。連絡網やマニュアルはあるが、本年度は避難訓練の実施が無かった。	○	昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけるため、毎年避難訓練を実施されることが望ましい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人内の栄養士により、バランスの取れた献立となっており、食事量、水分量も個人日誌により把握されている。一日の水分量は1000-1500mlを目標にして、医師の指示の下、水分制限には対応している。状態によりソフト食、刻み食等の対応もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の植物や活け花、利用者の作品、写真等が飾られている。ソファを各箇所に配置し利用者の憩いの空間作りも工夫されている。オープンキッチンから料理の匂いが漂い、家庭的な雰囲気である。廊下やトイレ、浴室に手すりを設けられておりバリアフリーに対応されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持ち込まれたソファ、整理棚、仏壇、椅子等それぞれが個性的な部屋作りとなっている。重度化に向けて電動ベッドの配置もあり、夜間の保温は希望で湯たんぽが使用されている。室温、換気は職員が調節し、快適な居室となっている。		

※  は、重点項目。